

窓辺

あんどう
安藤 隆敏

「教える」ということ、
「学ぶ」ということ

現職に就く前まで38年間、教職にいました。人の成長に直接関わることができ、崇高な仕事だと振り返っています。この原点として、フランスの詩人ルイ・アラゴンの「ストラスブール大学の歌」の一節を心に置いてきました。

1943年11月、フランスのクレルモン・フェランで、ストラスブール大の教授や学生がナチスの弾圧によって銃殺され、数百人が逮捕されるといふ事件があ

りました。大学は戦火を避けて、ストラスブールからこの地に疎開していたのです。この悲劇は、アラゴンに「ストラスブール大学の歌」という詩を書かせることになりました。

詩の中には「教えるとは希望を語ること、学ぶとは誠実を胸に刻むこと…」とあります。自分自身、教師として子どもたちに希望を語っているか、子どもたちは誠実な取り組みをしているかと問うようにしてきま

した。

また、子どもたちが語る希望から多くのことを教えてもらったり、子どもたちのさまざまな表れに誠実に対応することで、彼らの成長について学んだりしてきました。

「希望」や「誠実」が双方向となったときにこそ、教育の効果も出てくるものです。ただし、それは、数日後、数カ月後という短いスパンではありません。親という立場になって初めて分かることもたくさんあるからです。性急に効果を期待することは、真の教育とは、程遠くなることも多いでしょう。

(浜松科学館館長)